宮家御詠集

全

特別
イ4
3163
38

貴
14
3163
38

藤原家門歌集

春歌

春のきて春をはるかに山のまに
三月の雪の積りはさてさてして年のうちにも春の
はしめのうちに春をはるかに山のまに雪さへ
春をはるかに山のまに雪さへ
梅の枝に物はまてに春をはるかに
春にはるかに山のまに梅の
はるかに山のまに梅の
はるかに山のまに梅の
はるかに山のまに梅の
はるかに山のまに梅の

[illegible]

右一首治暦の比為[illegible]

梅の香はさそはせてこそ春の風
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏歌

[illegible]

[illegible]

秋歌

[illegible]

先ものきてこのかすむへき月の景をそしらんと京都人
数まて山れをかこ〜月をあるしと海より出る〜海をいき
吹ゐて松の梢に残る月のいりやうやう西まきるを
うらふ我文ばかりしけ残る月とをの
敵人の百さいりあるを西まるに松わるる月の海より
さ〜しあと吹ゐとこ〜にさをひさて月はえの廣沢の池
毎月とふいちしかれ深るさしきて枕のもとに落の月
数まてなる絶〜月の後に藤のもとにいくに行ふ
もく〜ものを問もてやるる月新と又ちるる無限
山をは月夜の松風ふるまてほてとやの月のとそいるむ
ものふことをおるものの人松〜世中に世のる新と月
をるふ人まるる井の景しかる出るるの時の景は山のる月

月のわ〜残るをひてまとるめ池〜と夜のまて〜ものを
取をする〜ものをは月をわひるる海の海と毎の
ゐ〜ひの景八月のもし〜てすれ〜る月はいたる
清さんる景みるせ紀のるれる海〜の蔵にのる月を
ひの〜ものと月をるるとものるるのものはるし
わ見る月吹るとのまの月はは山のわるとるひの月のけ
月形すひの景清〜いるとるるとるるとをる松を
ね人残をを月景きこて光のまを俗ふ秋の風
月の景鷹はをる月景月の景残ふ月の景残のる
すをにるきねをの初〜を秋〜に義とるるにつを
秋残をを称をんてきをは星をるる月〜沼の毎〜の景
をるは鹿をを敵〜ひるる〜秋八数人の毎〜るの称

こゝ[illegible]の松ふかきこゝにて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
世中にあるものゝ物ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の暮れわらも志ら歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なしくとも君はやちよを長かれの意をかけてつき侍る

恋歌

まちまてはちきりの恋をこそ侍るのてをつ[illegible]
恋のくるしい[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

羇旅歌

君をもむかへの船にのりてこそ
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜歌

今よりはいとゝ世ゝにうみてとゝのへ
[illegible]
世の中はいとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

世の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日

天原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出し月かも

月

月待つ間しばしばかりと思へども出でぬるかたの人の恋しさ

雲

山の端にいさよふ雲の立ちかくし

霧

きりたちて雁鳴くなり

雪

ふるさとは吉野の山しかぞ住まむ

杉

君が住む宿の杉むら

雨

降りぬとも人に知られぬ

海

みるめ刈る海人の袖だに

波

なれ来しかたの波の

池

さしもぐ汀の波は高くとも

澤

あかつきくれあるいとうに素井井川のさゝ[illegible]

渕

と月の川りあるもの渕川あるもの渕とあるて

瀬

いかゝなるみるもむあすかさゝ世渕もせを

山

河ひしのこるるるに沿あれと数いとゝ[illegible]

畠演

いかゝかゝかゝてゆみ川みやるる中世つさ

[illegible]

うるさてすゝ川かもとゝれ沈

石山

紫城三宮みかむのうるあまとをとゝ[illegible]

栗津野

せたことあるとゝ杉のもとゝ清水にみゝ

杉本松

うゝ山人もすさ絶ねるれや杉本井松のふ井

老若森

我方ゝ老そのもの井秋風清とゝ清ちゝ本井[illegible]

伊吹山

みるとてもかゝるかたのあるものを
なにしおはゞ
なるらん

忘梅木

ちるときは梅の木にこそ
なりにけれ
世をうきものと
思ふ

後の世はくらきこゝろの
迷ひとて
なにかは
なるらん

歌ばかりこそ
まことの
ものなれ

世の中をうたふつもりとて
ふかの
道よ
ものの
ひとの
ものの
ものの
もの

聖廟御詠歌以北野寶成院明須自筆
之古書冷々長享三年己酉正月初四日
天文八年三月廿八日增之書杉之本書冷々
しゝ一冊多賀山房城之刻石亦感旧之物為世伴此欲
文覺二　卯月　日